



2025年2月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジャータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は安定した夏を迎えております。最高気温が **35度** を超える日もあり、森林火災も増えてきております。引き続き大規模な森林火災に注意が必要です。銅価格は昨年 **5月** に **5.0** ドルを超えて過去最高値になりました。**6月** 以降は **4.3-4.5** ドル台になり、ここ **2ヶ月** は **4.0** ドル台で落ち着いていましたが、今年 **1月** より強くなってきており、**4.2** ドル近くまで上昇しています。銅の価格上昇はチリ政府の歳入が増えて今年の経済成長率を押し上げそうです。為替はドルに対して **1000** ペソを超えた後 **990** ペソ台へ戻って、ペソ安ドル高の傾向は続いています。昨年の物価上昇率は政府予想の **3.0%** を超えて **4.5%** になったようです。チリ大統領選挙が今年 **11月** 頃に予定されていますが、現在の新左翼政権から再び中道右派政権へ戻る可能性が高い世論です、

2. 世界市況

速報値ですが、昨年チリから日本向け輸出数量は約 **17万m³** で前年より約 **9%** 減少したようです。中近東向け輸出数量は **30万m³** を超えて前年より約 **25%** 近い増加になりアジア諸国では唯一の増加した国でした。韓国向けは約 **36万m³** で前年より約 **5%** 減少でした。グリーン製材は中近東向け **23%**、韓国向け **27%**、日本向け **13%** でアジア上位 **3ヶ国** になります。中国向け家具用 **KD** 製材は約 **24万 m³** で前年より **25%** 減少をしており、今年の中国市況は春節明け以降に木材需要が強くなるか見ていく必要があります。またトランプ **2.0** 政権が関税を含めた世界市場にどのような影響を今後は与えていくか見ていく必要があります。特にメキシコへの **25%** 関税はチリのサプライヤーに大きな影響が出そうです。メキシコで米国向けレンタルパレットを製造しており、チリから **KD** 材が年間約 **27万 m³** 輸出されています。仮にメキシコ向けから米国向けに販売経路を変更した場合、米国

のレンタルパレット業者が米国でパレットをコスト内で製造出来るか疑問です。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2024年12月配船(5番船)は川崎港へ1月下旬に入港して2月前半で名古屋、大阪へ寄港を終えます。次回2025年3月配船(1番船)は日本各港へ4月入港予定で、5月連休前後に寄港を終える予定です。チリの販売数量は目標の3万m³満船にはならず約75%の積載になります。船社が共積みの素材を探すことになりそうです。

次回5月配船(2番船)で満船が厳しくなると、3船社でバルク配船の提供が厳しくなる状況になってきました。アラウコは日本向けのバルク配船を継続したい意向に変わりはないので、出来る限りコンテナ配船は避けたい意向です。

b) 梱包市況

12月以降の梱包需要は年末年始の9連休や祝日もあり、1月も市況は静かでした。各社、中国の春節明けの市況や3月の年度末決算に向かい、輸出梱包材の需要を見ていく営業になりそうです。

輸出梱包材の需要が予想より低迷しており、各社の在庫水準は増えています。

今年の1番船は在庫調整の為に数量を絞った問屋が多くいました。

まだ昨年後半に入荷した3番船の在庫があり、4番船へ販売を移行しなから、1-2月に入荷した5番船も控えており、在庫の回転率が通常より遅くなっています。

昨年後半から3000円の値上げを浸透してきた市況ですが、3月以降は更に3000円の値上げをしていくこととなります。現地のドル単価は昨年後半から据え置きですが、為替が10月の145円台から155円台をキープして円安ドル高傾向が続いており、港湾費用、配送費用、人件費など経費負担が増えています。

今後入荷してくる製材の利益率を確保しなければなりません。特に関西エリアは競合も多く、2回の値上げ交渉は難航が予想されます。

国産杉製材業者も今月より2000-3000円の値上げを始めております。国産材は為替のコストはありませんが、製材費用、配送費用、人件費は上昇しています。

また森林からの丸太出材も引き続きタイトで、丸太価格も強含んでいます。

今後はコストの高い輸入建築材の入荷が続くこともあり、国産材にシフトしている地域も増えています。杉製材業者は建築材のシェアが増えてくると、梱包材の生産納期遅れや価格が強含むことも予想されます。

以 上